

## 2-25-2 臨濟宗妙心寺派 鍾山 慈恩護国禪寺

当寺は戦国時代末期、八幡城主遠藤但馬守慶隆公深く禅門に帰依され、京都花園妙心寺に定慧円明国師（南化玄興禅師）を訪ね、その弟半山紹碩禅師を当地に迎えて教えをこわれ、慶長 11 年（1606）国泰民安を祈願して建立、半山禅師を創建開山と仰がれる御本尊は、釈迦如来である。寺内に但馬守嫡男長門守慶勝公及び生母智勝院殿の塔所を建立し、当寺を長州公の菩提所と定め但馬守の学問所とされる。元和 8 年（1622）正月 20 日、山火事類焼の厄に遭い堂宇全焼するも、但馬守江府より工匠を呼び庫裡（12 間・18 間）再建後寛永 8 年（1631）8 月、前長州公二の丸御殿を移して本堂（9 間・12 間）を建立される。当山第 2 世天外和尚、第 3 世梅山和尚と 3 代を経て、堂々たる堂塔伽藍並びに境内の整備を成したと伝えられ、元禄 13 年（1700）高山城主、金森頼峯公、郡上に移封となり以来当山は、金森公の香花所となる。第 6 世絹因和尚代勅使を以て寺号に「護国」の 2 字を賜り、文化 14 年（1817）勅諭大徹正源禅師（棠林和尚）禅堂建立、雲水 80 有余員参集して、禅風大いに揚がったのであった。因みに当山は隠山系棠林門下一流の発祥地である。嘉永 5 年（1852）第 12 世月局和尚経蔵新築され、禅寺の偉容全く堂々たるものとなる。第 13 世漸炊和尚代、維新の政変、排仏毀釈の法難に遭い、寺内困窮、第 15 世綱山和尚代、明治 26 年（1893）8 月 22 日、県下未曾有の豪雨あり、裡山崩壊し本堂始め諸堂宇埋没、僅かに総門及び勅使門を残すのみの惨禍に遭うも、同 29 年（1896）本堂裡再建、第 17 世英山和尚、昭和 50 年（1975）宝蔵庫建立される。名勝天然記念物「莖草園」は、創建半山禅師の作庭にして、明治被災以前は、広々と本堂の周辺一帯をめぐり、古城跡東殿山を望む庭中のたたずまいなど、往時の雄大さは偲ぶべくもない。併し、現存の借景に依る池泉回遊式の禅宗庭園としては当地方随一を誇るものである。

説明板より